

(大阪版)

火力発電所の配管保温材を再利用した保水性パネルの開発 関連

《H22.8.27(金)》

22.8.27

保水パネルで 建物内冷やせ

八幡の閉校小学校で実証実験

都(?)

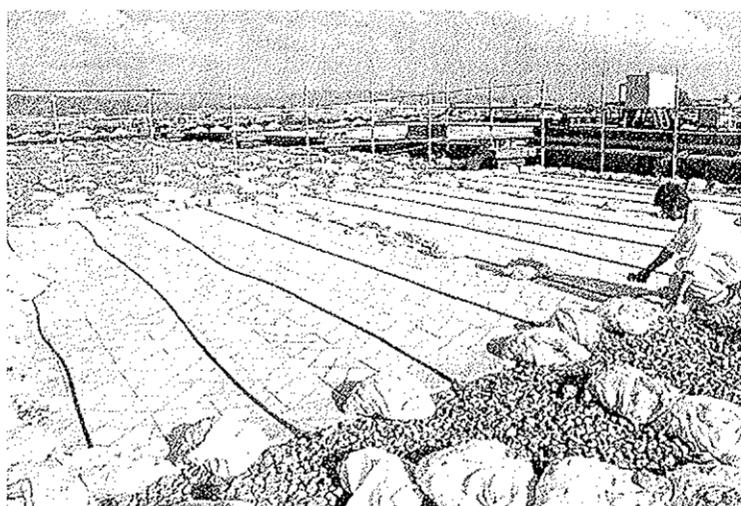
環境ベンチャー企業の
森生テクノ(大阪市)と関
西電力、和歌山大は26日、
屋上に敷設して階下の室
内を冷却する保水性パネ
ルを開発したと発表し
た。閉校した八幡市の小
学校舎で実証実験した
ところ室温が約2度低下
したといい、「ヒートアイ
ランド現象の緩和などに
役立つ」としている。

保水性パネルは厚さ約
3mmで、1m²の100万
分の1という微細な穴が
無数に空いている。パネ
ル内に水分を含ませ、蒸
発時の気化熱で周囲を低
温に保つことができる。
火力発電所で廃棄され

産学共同開発で

屋上設置

室温2度低下



冷却効果を調べるため校舎屋上に敷設された保水性パネル
(八幡市・旧八幡東小)

八幡東小(08年春閉校)
の3階屋上に、1教室分
(約85平方㍍)となるパ
ネル約千枚を敷いた。1
日2度散水して、階下の
室温を他の教室と比較し
たところ、窓を閉めた状
態で室内の温度が平均2
・1度低かった。

森生テクノと関西電力

は特許を申請中で、早ければ来年度末の商品化を

自指す。八幡市生涯学習

センターでは、同パネル
を用いたベンチ1基も試

験設置している。

和歌山大システム工学
部の山田宏之准教授は

「パネルの敷設でエアコ
ンの使用を4割抑えられ
る。緑化の荷重に耐えら
れない屋根上でも敷設で

きるため、実用化的期待
は大きい」としている。

る配管断熱材とセメント
で、冷却効果が高く、質
量の軽い材質を実現し
た」と説明している。
の構造を工夫すること
を混ぜ合わせて製造。「穴
」と説明している。

3者は2007年から
共同研究を進め、実証実
験のため今年7月から旧

(山下悟)